



深山たかし

発行元：深山たかし後援会
 上尾市大字上1774-7
 048(776)0575
 fukayama-sov@jcom.home.ne.jp
 ホームページは検索サイト
 ”深山たかし”で閲覧できます。

議会リポート

道路照明灯について

整備状況について

省エネルギーの観点から道路照明灯を蛍光灯式からLED式に変更する自治体が増えてきました。上尾市でも電気料節約効果が期待出来るLED照明灯へ移行する考えを尋ねました。

●答弁要旨●

道路照明灯については、幹線道路を除き、事務区に管理をお願いしています。

この道路照明灯は、夜間の安全な交通を確保するため、事務区長さんからの要望により「上尾市道路照明灯設置及び管理要綱」に基づき設置しています。

また、事務区に電気料の

全額を。修繕費の二分の一を補助して維持管理をお願いしています。

道路照明灯の整備状況ですが、率成二十五年度につきましたは、事務区から設置要望七十八件に対し、六十七件を新設しました。その設置に係る一基当たりの費用は、八ワットLED灯電柱共架式で約三万六千円、八WLEDポール(小柱式



LED式、白色が強く明るい

で約十七万九千円。また、維持管理費用に關しましては、電気料として約六千二百九十九万円、修繕費として約四百十七万円を補助しています。

ランニングコストの軽減策については、現在事務区管理め道路照明灯約一万基のうち、LED以外の約九千六百基についてLED化を図るにとが考えられます。

試算では二十ワット蛍光灯を八ワットLED灯に交換することで電気料は半減します。

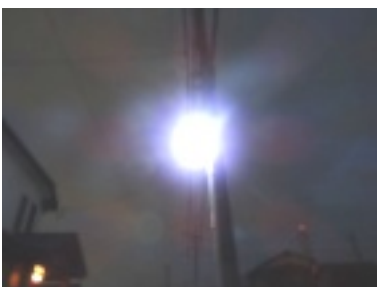
またLED灯の寿命は十年以上であることから、その間の修繕費用は、ほぼ生じません。LED化の方法



右従来の蛍光灯式道路照明灯。

といたしましては、これまでの国等の補助金を活用して市で交換工事を行う方法に對しまして、近年では、LED改修にかかる全ての経費を光熱水費等の削減分で賄うESC(エスコ)事業を用いて、概ね十年間のリース契約を行う方法を採用する自治体も増えていきます。

しかし、ESC(エスコ)事業方式については、リース契約満了後にLED機器の寿命による交換が集中する問題などデメリットも指摘されるところから、引き続き他の自治体の事例等も調査・研究を行ないながら、上尾とつて最善の方法を検討していきます。



点灯時のLED照明灯

学校の食育の取り組み と給食の工夫

生活習慣病を予防するためには、子供の頃から正しい食習慣を身につける必要があります。

また、義務教育を卒業した十代・二十代女子では、瘦身体型にするために極端に食事制限をしてしまう人もいるようで心配です。小中学校では「食育」をどのように、取り組んでいるのかを尋ねました。

【答弁要旨】

現在、学校での食育の取り組みについては、給食の間をはじめ、家庭科や保健体育などで食に関する指導を計画的かつ継続的に実施できるように、学校の教育活動全体の中で学校教育目標を達成するために「食に関する指導全体計画」やこの計画に基づき学年ごと月別に計画を立て指導をいくための「食に関する指導

の年間指導計画」を作成しており、食に対する理解を深めることや好き嫌いなく食べることの大切さを年間を通して指導しています。そのなかでは特に食事の重要性、心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化の六つの観点に基づいた指導を行っています。

平成二十四年に実施した市民の食の現状や食への意識を把握するための「食育に関するアンケート調査」の結果から一般市民や高校生の日当たりの野菜料理の摂取量一から二皿の回答が六割近くあることや最近の大学生には、食事を一人でとる孤食の流行が報道されてきていることなどから、子どもたちから食育の充実をはかることが必要となります。家庭には、給食参観や給食日より、保健だよ

り等をおして栄養バランスの整った食事の大切さを理解していただくようにまた、学校や家庭では家族や

友達との会食が楽しいと感じることができるよう、人と人とのつながりを深め豊かな食生活につながるよう努めてまいります。

次に給食の工夫について、学校給食では、季節の食材を使い郷土料理や和食の日を取り入れるなど色々な味を体験し、豊かな味覚を形成できるように献立に努めています。

具体的には、本市で収穫された埼玉県の推奨米である「彩のかがやき」を給食に取り入れています。

また、小学校では毎年、冬の季節に「かす汁」を給食に取り入れておりました。今年一月に市内の酒造会社の酒粕を使用することができました。

さらに今年度は六月に地元農家の方々の協力により小学校十五校で市内産のトマトを給食に取り入れることができました。

今後とも地産地消を含めた献立の工夫についてさらに努めてまいります。

自治会・町内会の活性化と地域づくり

【問】となり近所との交流のない市民に対して市はどんな支援ができるのか

【答】市では福祉部門において「要援護高齢者等支援ネットワーク」により、新開販売店などに対し、日常の活動の中で、さりげない見守りや声掛けなどにより、異変への早期の気づきをお願いしておりますが、災害時などにおいては、普段から隣近所や地域との交流が大切であり、やはり居住区域の自治会・町内会の皆さんにご協力いただきながら、その必要性をより一層アピールしていきたいと考えております。

文化財保護と公開

【問】上尾市には、歴史資料館の様な施設がありませんが、郷土愛を育む為にも

歴史資料の公開を進める必要を感じています。これまでの取り組みは？

【答】これまで収集・整理してきた歴史資料については、上尾市史の編さん事業などで活用してきました。

また、地域の歴史を研究する市民の皆さんにも、閲覧という形で提供し、必要に応じてマイクロフィルムからコピーを作成して提供するという形で活用を図ってきました。今後より多くの市民の皆さんに貴重な歴史資料の活用していただけるよう、取組んでいきたいと考えています。



桶川市の歴史民族資料館